

神龜五年戊辰、大宰帥大伴卿、故人を思
ひ恋ふる歌三首

四三八番

愛しき 人のまきてし しきたへの 我が手枕を
まく人あらめや

四三九番

帰るべく 時はなりけり 都にて 誰が手本をか
我が枕かむ

四四〇番

都なる 荒れたる家に ひとり寝ば 旅にまさり
て 苦しかるべし